

カトリック センター便り

第11号
平成26年
1月23日

三つのクリスマス行事

清泉ファミリークリスマスの集いについては、はじめに参加された酒井宗代先生に、短大の静修会については小林房子先生に、大学については田村亮子先生に、報告・感想をいただきました。

清泉ファミリークリスマスの集い

2013年12月14日、長野市ホクト文化ホールで、「清泉ファミリークリスマスの集い」が催された。本年は、長野清泉女学院中学・高等学校によつて、第一部演劇部・音楽部公演「泉は涸れず」、第二部クリスマス・ミサが行われた。

第一部の公演「泉は涸れず」は、本学設立母体である聖心侍女修道会シスター方の太平洋戦争下、疎開地長野県野沢でのご苦労を偲んだものである。生徒さん達が生き生きと、シスター方の厚い信仰と、戦時下でありながらシスター方を支えた野沢の人々の思いを伝え、観客に感動をもたらした。



第二部は、東京・上野毛教会、古川利雅師司式によるミサ聖祭が挙行され、清泉ファミリー全員が主のご降誕の喜びに満たされた。

今月のみことば

苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む。希望は欺くことがあります。
(ロマ書5・4-5)

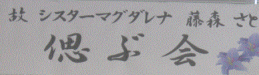


カトリックミッションスクールの香気が伝わる数時間であった。生徒さん達の真剣さと同時に、指導にあたられた先生方の熱意も感じ深い充足感をもつてホールを後にした。

当日のミサの中で、本学の大学生・短大生は、弱い立場にある人々のお役に立てるようと、清泉祭の模擬店の収益金の一部を、「ラファエラ東チモール基金」(聖心侍女修道会)と「チャイルドライン長野」(子どもの電話相談)に贈るといふ奉納を行った。

故シスター藤森さんを偲ぶ 追悼ミサが行われました。

前回の予告どおり、本学ならびに中高、それにそれぞれの同窓会、愛泉会とさゆり会の共催により、暮も押し迫った12月26日の午後、本学を会場に、追悼ミサと偲ぶ会から成るお別れ会を行いました。



女専初期の卒業生や、遠くは岡山から、また、今は東京に住む旧教職員方が馳せ参じてくださり、150人以上の参加者が旧交を温めました。「共に」を口癖にしていらしたシスター藤森もきつと喜んでくださったことでしょう。

短大クリスマス静修会

短大全体として第2回目となるクリスマス静修会が下記の様、行われた。

12月18日(水) 14:40~16:05 J-301

テーマ:「クリスマスって何だろう」

司式司祭:小高毅神父様(カトリック長野教会)

参加者:短大1年生、教職員

賛助出演:ハンドベル(山崎先生卒研セミナー)
合唱 (音楽Ⅲ履修学生)

奉納:幼教:どんな保育者をめざすか書かれたクリスマスツリーのタペストリー

国際:校章

以上短い準備期間であったがカトリック学校として、建学の精神を担う象徴的行事として行うことが出来た。



大学クリスマス静修会

本来のクリスマスの意味を、行事を通じて理解し、味わうことを目的として、今年も、降誕に関する泰西名画のパワーポイントとクリスマスキャロルの名曲をバックにした聖書朗読に始まり、「『きよしこの夜』誕生物語」「賢者の贈り物」の朗読劇と、「サンタクロースって本当にいるの」の朗読、キャンドルサービスの厳かな前半に続いて、教員扮するサンタクロースが登場し、プレゼント配布、サンタクロースをめぐるクイズなどに会場は沸いた。